会員広場 なじょだね

当たり前のコトが当たり前にできる基本を大切に

相和プレス工業株式会社

代表取締役社長 渡邉隆司氏
柏崎市大字藤井1517
Tel.23-5361 Fax.22-0363

真夏日が続く七月下旬、市内藤井の精密プレス加工・金型製作の相和プレス工業株式会社を訪ね、代表取締役社長　渡邉隆司氏から話をお聴きした。渡邉氏は一九四七年生まれ、刈羽村出身で柏崎工高を卒業。市内の電機系製造業でマイクロモータの組立ラインに携わるところからモノづくり分野一筋のスタートをきっていくことになる。

どんな子ども時代？の問いに「野球とかくれんぼのような外遊びばっかりで、夏は3回くらい脱皮した（日焼けで皮がむけまくり）」

部活は？「中・高と卓球部に所属しつつ、担任の美術の先生の影響で絵画を描くコトに没頭していたかな！水彩も油絵も」

趣味は？「収集モノをいくつも……切手、古銭などにあわせて父が残したタバコやマッチの木箱など明治時代のモノはおそらく価値が高いはず」

「趣味は他にも釣りや園芸も……地元でスポーツ振興会を立ち上げて早朝野球もしたり、消防団での操法練習＆大会参加、神社の舞も続けていて若手への継承も課題だったり」と大活躍ぶりが目に浮かぶ。必然的に区長も経験されていて、地域でもなくてはならない存在と推測できる。

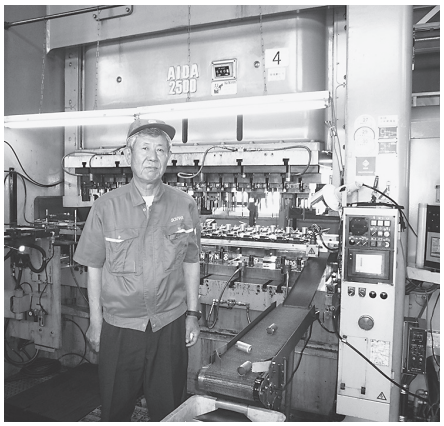
ゴルフは？「銀行関係や集落でも定期的にラウンドしていて、ゴルフのおかげで友人も増えてありがたい」

仕事でのターニングポイントは？「最初の電機系製造企業において、マイクロモータ関連で取引のあったキヤノン系の東京の企業で、一年間プレスの経験を金型の修理を含めて積ませてもらったこと。その後2回ほどビクターでも修行させてもらい感謝でしたね」

相和プレス工業のスタートは？「9年間勤めていた会社が閉じることになり、主にプレスの部門ごと引継ぎ、会長（前社長）と協力して一九七六年に協和加工として田塚で創業したカタチ」「プレス機を設備する際も当初は銀行からの借入も難しく、苦労の連続だった。初期からモータケースに携わっていたことで、『深絞り加工』が強みとなっていった」

こだわりは？「ズバリ『一貫生産体制』CAD～金型～プレスまでを自社のみで対応できること」「コレを維持していくためには技術者の育成が不可欠で、知恵を共有するための作業標準の確立や若手には愛情をもって叱る接し方も必要と考えている」

将来は？「やはりヒトづくりが急務。技術と経営感覚をあわせ持つまずは三名を……」「当たり前のコトを当たり前にできる習慣化に向けて、社内技術講習も開講したい」「指示待ちではなく、時間＝コストとしてムダがマイナスになると理解できるために標準時間も構築していきたい」

トランスファーによる深絞り加工が、大手マイクロモータ系企業へのお役立ちにつながり続けるであろう未来を実感した取材となった。

（編集委員㊋・㊌取材）